

科目名称：	ゼミナールⅠ	
担当者名：	藺森 喜美、藤元 宏一、瀬戸 就一、矢澤 建明、越野 裕美子、廣瀬 元、井戸 健敬、若月 博延、坂上 牧子、丹羽 篤志	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>入学以降、ビジネス実務に関して幅広い学修を行い、ビジネス現場で役立つ知識や技能を身に付けてきました。ゼミナールでは、これまでに学んだ知識・スキルを活用し、少人数のチームで研究テーマを設定し、教員指導の下で自発的な研究調査・課題解決を行うことにより、能力発揮のしかたを学んでいきます。また、後期の「ゼミナールⅡ」へつながっていくものにもなります。また、各教員の指導の下、ふれあいを通して有益な学生生活を送ることもゼミナールの大きな目的であることも付け加えておきます。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>「ゼミナールⅠ」では、後期の「ゼミナールⅡ」への準備段階として、「研究調査をするということはどういうことなのか」「自発的な研究調査・課題解決とはどうやっていくのか」をマスターしてもらうのが第一の目標です。実際に研究テーマに沿ってゼミ活動を行っていきます。最終週には小グループでの中間発表を実施し、中間レポートも執筆することで、自発的に考え、調査・行動することができるようになるのが次の目標です。なお、下記「授業の内容・計画」および「事前事後学修の内容」は、ゼミナールグループを担当する教員によって進度が異なります。</p>		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	○
DP(2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)				50	50
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)					0
ビジネスDP(4)				50	50
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい(10)	よい(8)	あと少し(6)	がんばろう(4)
問題設定力	自ら問題を設定することができる。または、何が問題であるのかを論理的思考により設定できる。さらに、問題を記述し明確にできる。	自ら取り組む問題を設定することができる。または、何が問題であるのかを論理的思考により設定できる。	自ら問題設定をすることはできないが、何が問題かを明らかにできる。	何が問題か明らかにはできないが、問題設定の議論に加わることができる。
調査分析力	問題解決のために必要な分析できる能力があり、そこから新たな提案をすることができる。また、インターネットだけでなく、必要な文献を検索し、読解することができる。	問題解決のために、必要な資料さえあれば分析できる能力がある。インターネット等で必要な資料を集めることができる。	メンバーの一員として、分析に協力できる。	メンバーの一員として分析した内容を理解している。
共同作業力 × 2	グループのリーダーとしてまたはそれに準ずる役割を發揮し、研究・調査・制作を行い、まとめることができる。グループのスケジュールを調整し、遂行することができる。	グループのリーダーをサポートする役割を果たし、研究・調査・制作を行い、これをまとめることができる。	グループの一員として研究・調査・制作に貢献している。	グループの一員として研究・調査・制作の作業ができる。
実地調査力	自分ひとりでアンケート調査、インタビュー調査を設計することができる。さらにフィールドワークを実践できる。	グループ全体でアンケート調査、インタビュー調査を設計することができる。さらにフィールドワークを実践できる。	グループの一員としてアンケート調査、インタビュー調査を設計することができる。	フィールドワークの経験はないものの、各種調査をすることができる。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 各教員の研究テーマ・制作テーマを学生に説明、提示する。	各教員の研究テーマを熟読し、空き時間に希望教員を訪問する。	40分
第2回 配属になる担当教員・テーマを決定。	各教員の研究室を訪問し、テーマについて面談し、内容の理解を深める。	10分
第3回 各ゼミグループで課題解決学修の進め方を学修。	チームミーティングの準備。	10分
第4回 教員の提示したテーマを基に、課題明確化の議論を行う。	テーマについて、何を課題に研究していくか予習しておく。	30分
第5回 資料収集。	資料収集のための準備。	40分
第6回 インタビュー調査・フィールドワークの方法を学ぶ。	資料についての分析。	40分
第7回 インタビュー調査・フィールドワーク1	インタビュー調査・フィールドワーク1の準備	60分
第8回 インタビュー調査・フィールドワーク2	インタビュー調査・フィールドワーク2の準備。	60分
第9回 収集データのまとめと考察。	各自、報告用データをまとめておく。	60分
第10回 研究・制作など実施計画と方策の立案。	データを基に、各自研究方策について考えておく。	30分
第11回 研究・制作など方策の実施。	研究・制作などの準備。	20分
第12回 研究・制作など方策の実施。	研究・制作などの準備。	20分
第13回 実施のふりかえりと今後の課題を検討。	各自、実施のまとめを行う。	30分
第14回 結果のまとめを行い、中間発表会の準備をする。	中間発表会(パワーポイント等)の準備。	120分
第15回 結果のまとめを行い、中間発表会の準備をする。	中間発表会(パワーポイント等)の準備。	120分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。  
また、事前事後学修としては、各ゼミ教員の方針にもよるが、準備などを小レポートにまとめることとする。

**成績評価の方法・基準**  
定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。  
活動状況50%、レポート及び中間発表50%。

**課題に対してのフィードバック**  
活動の最終段階で、各ゼミナール担当より活動状況についてのルーブリック評価を返却します。

**教科書・参考書**  
各ゼミナール担当教員の方から随時指定します。

中間発表ルーブリック	すばらしい(10)	よい(8)	あと少し(6)	がんばろう(4)
発表内容・構成(発表概要含む)	問題設定が明確であり、豊富な内容をきわめて論理的に構成して発表している。	問題設定が少しあいまいであるが、内容が豊富で論理的に構成された発表をしている。	内容は豊富であるが、問題設定があいまいで、構成が体系立てられていないまま発表している。	内容としての分量はあるものの、問題設定がなく、まとまりのない発表をしている。
スライド、図表・画像・映像など	プレゼン内容を補強するための図表・画像・映像などを効果的に使い、文章を多用せず、インパクトがあるスライドを作成している。	文章は多いものの、内容を支持する図表・画像・映像などを使っている。	図表・画像・映像をたまに使っているが、プレゼン内容を支持しておらず、文章中心のスライドをつくっている。	図表・画像・映像をまったく使わず、文章のみのスライドをつくっている。
発表姿勢	聴衆とアイコンタクトを保ち、大きな声でボディランゲージがあり、説得力がある。	聴衆とのアイコンタクト、十分な声量、ボディランゲージのうち、2つができていて、発表に説得力がある。	聴衆とのアイコンタクト、十分な声量、ボディランゲージのうち、1つができていて、発表に説得力がある。	聴衆とのアイコンタクトがとれず、声が小さく、ボディランゲージもない。
内容理解・質問応対	プレゼン内容を十分に理解して発表している。また、質問に的確に応え、かつ詳しく説明できる。	プレゼン内容を理解して発表している。質問に対してつまるところもあるが、何とか説明できる。	プレゼン内容をよく理解せずに発表している。初歩的な質問には応えられる。	プレゼン内容の知識に乏しいまま発表している。内容に関する質問にうまく応えられない。
他の学生の発表を聴く者として	他の学生の発表を真剣に聴き、関心のある発表で積極的に質問している。	質問はできなかったが、他の学生の発表を真剣に聴いている。	質問することもなく、他の学生の発表をよく聴いていない。	他の学生の発表中に、うっかり居眠りをしている。

以下は昨年度の研究テーマ(前期)の参考例です。

●第1分科会

白山検定アプリの改良  
Raspberry Pi を使用した温湿度センサーの実験  
Raspberry Pi を使用した人感センサーの実験  
金城のSNSの現状とTikTok  
5G通信の現状  
5G通信がもたらす未来  
Excel VBAプログラミングによる処理自動化プログラムの作成

●第2分科会

知ってほしい和菓子の世界  
訪れてほしいいしかわの観光スポット  
体験してほしいいしかわの伝統文化  
コロナウイルスとオリンピック  
オリンピックについて  
アイスブレイクとストレッチについて

●第3分科会

ハーブを使用したアロマセラピー  
アロマセラピーヒヤラ2020  
ポジティブ心理学を学んで  
高校生面接対策講座  
コロナに負けるな～SNSで伝える白山の魅力～  
電動アシストで行く手取キャニオンロード

●第4分科会

お菓子変身プロジェクト  
ふるさと野々市市プロジェクト  
ふるさと能美市プロジェクト  
ふるさと白山市プロジェクト  
ワークショップイベントを体験してみよう  
子どもでも簡単キャンドル作り  
全国のキャンドルワークショップ～Best3～

●第5分科会

Kinjoism 理想の白山ドライブ  
Take Pageの作成-食で元気に！-  
短大生のためのVlog入門講座-富山のスポット紹介を例に-  
健康ダンスの提案